

# へびは神様？

へびにおそろえ へびに祈る

新年最初の「ふるさとの誇り」は、今年の干支にちなんで、文化の中のへび、とりわけ南アルプス市に伝わるへびにまつわるエピソードを集めてみました。



北原C遺跡出土土器

上を向いた動物(カエル?)の背中に重なるようにへびが描かれています。カエルは多産なため女性を象徴しているとされ、へびとセットで描かれているこの土器はまさに「繁栄」や「命」を祈ったものと考えられます。

4箇所とも、三角頭でとぐるを巻いたへびの姿です。



とかく嫌われがちなへびですが、人間とへびとの付き合いは古く、毒を持っていたり脱皮をするという不思議な力をもつことで、再生や不死のシンボル、さらには「神の化身」としてあがめることが多かったようです。

たとえば白いへびは縁起が良いとか、蛇の抜け殻をお財布に入れるとお金が溜まるという風習はよく耳にしますし、市内には「蛇が家の中に入ってくる夢をみるとお金がたまる」という迷信も伝わります。

人々とへびとの関わりは日本では縄文時代に遡ることが出来ます。当時、自分の力で理解できない事象については神の力と考え、自然現象や生物そのものを崇拜したようで、へびもその代表格といえます。

## 北原C遺跡のへびの装飾

曲輪田にある北原C遺跡からは、縄文時代中期後半(約四五〇〇年ほど前)の土器にへびの姿を表した装飾が多くみられます。縄文人にとってのへびは、マムシの姿などから男性のシンボルになぞらえて、男性や繁栄を象徴したと考えられています。自然の力に畏れ、感謝し、へびを祈りの対象としていたようです。

また、ヤマタノオロチの神話で知られるようにへびは水の神様として扱われることが多く、古くより水に悩まされてきた南アルプス市にもへびに関わる信仰のエピソードは多く残されています。

野牛島にある能蔵池は湧水を利用したため池です。弘法大師は能蔵池のほとりに立ち、御勅使川の洪水を起こしていた悪蛇を教えさとし、洪水を鎮めたという伝説があります。



5月3日にわし宇賀神の祭りがあるさ



へびの装飾(北原C遺跡出土)土器の装飾の一部で、前を向いて首を上げ、ニョロニョロとした胴体の様子がよくわかります。頭部や背中にもうろこ状の模様が描かれています。



能蔵池の傍らにある能蔵稲荷には水の神様である宇賀神(うがじん)が祀られています。体がへびで顔が老人というユニークな姿が特徴です。同じく池の傍にある桃岳院の守り神とされ、桃岳院に納められています。



釜無川にも蛇神の伝説があります。豪雨の日のこと、女性が釜無川の濁流の中に釜のふたを投げ入れその上に飛び乗るとたちまち蛇神に変化して荒れ狂う川を鎮め、洪水を防いだというものです。

へびもムカデも  
どーけどけ  
おらあ鍛冶屋の  
むこどんだ  
槍も刀ももってるぞー  
早くどかなぎや  
ぶったぎる

結局嫌われ者ね？  
今年の干支よ  
大事にして！



最近まで小正月には、お団子を作ったときのゆで汁に、どんど焼きの灰を加えて、家の周りに撒いて虫除けをする風習がありました。その時、左上のような文句を唱えながら撒いたそうです。



信仰の対象であったへびは、強い畏怖心からか、やがて社会の発展に伴って嫌悪へと変わってきたと言われています。

でも、いまだに神社や古いお宅にへびが住み着くと、なんだか居心地が悪いと思いつつも、「家の守り神」として邪険に扱うことはないですよ。縄文時代から続くわれわれ日本人の心に刻まれたものなのかもしれませんね。

## ミニ企画 「縄文の蛇」展

場所 ふるさと文化伝承館

期間 2月末まで

\*今回掲載した以外の資料などもすべて公開します。